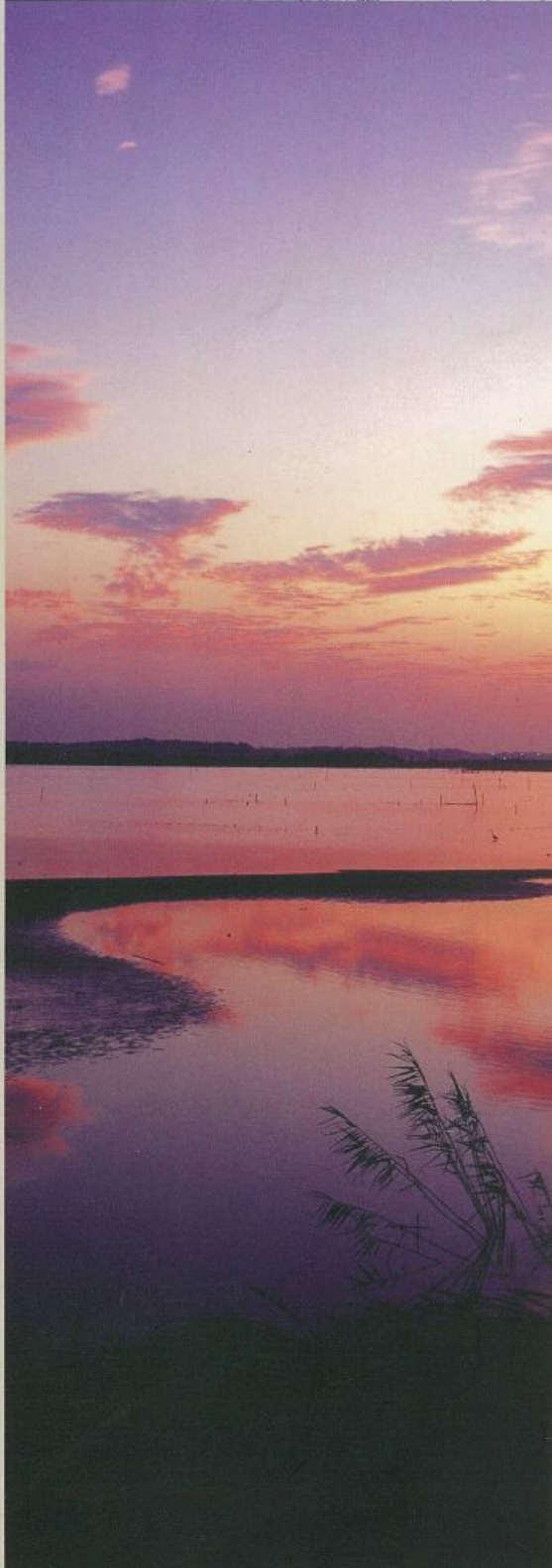


旧沼南町の閉町記念誌

閲覧用 (在庫なし)



沼南町のあゆみ

- 享保15年 (1730) 手賀沼古新田検地、1300石余高入れされる。(戌高入れ)
- 享保16年 (1731) 手賀沼反高場検地、沼の水内地所出来る。
- 享保17年 (1732) 布瀬村鳥獵の鳥を他村の仲買に売ることを禁止する。(沼南町・湯浅弘行家文書)
- 享保19年 (1734) 洪水、利根川からの逆流により千間堤切れる。以後修復されず。(印西市・岩井啓治家文書)
- 天明 5年 (1785) 老中田沼意次手賀・印旛沼開発を計画するが洪水で断念する。排水路の整備に徹する普請を実施。
- 天保13年 (1842) 大森村、竹袋村と手賀沼39か村新田の悪水出入り激化、多くの怪我人を出す。(沼南町・石原貞昭家文書他)
- 慶応 2年 (1866) 筑波郡谷田部新町沖右衛門ら、手賀・印旛沼開発願書を提出するも、新政府許可せず。(沼南町・湯浅弘行家文書)



殉難記念碑

湖北での研修を終え参加者達は3艘の船に乗り、手賀沼に乗り出したのです。3艘の船はそれぞれ縄で繋がれており、しかも船頭は2人だけでした。はじめの内は穏やかな天気です、一同談笑していたようですが、対岸までもう少しという時、突風に襲われたのです。激しい風波による浸水で、たちまち船内は悲鳴に包ま

手賀沼の水難史の中で最も悲劇的なものに、昭和一九年に起きた女子教員たちの殉難事故があります。太平洋戦争末期、男子教員の多くは戦地に赴き、教室で子供達に教えていたのはほとんどが女子教員となっていました。こうした中、東葛飾郡の教育会主催による研修会が度々実施されました。昭和一九年一月二二日、この年3回目の研修会が午前中に湖北国民学校、午後手賀東部国民学校で計画されたのです。

(2) 教員殉難

れ大混乱となりました。まず一番風下の船が沈み、縄で繋がっていたため2番船・3番船も次々と転覆して行きました。懸命の救出活動も空しく、乗船者44名のうち18名の犠牲者を出すと言う大惨事となったのです。



殉難者の慰霊祭

当時の新聞は「視察会の女教員一行、伝馬船が転覆遭難、ああ魔の手賀沼 一八の生霊を呑む」と大きく報じました。犠牲となったのはそれぞれに地元の学校教育に情熱を注いでおられた先生方等で、ご家族はもとより、沼南の教育に与えた衝撃は計り知れないものであります。

事故現場を見下ろす我孫子市中里の高台には殉難記念碑が立ち、「教育は国家発展の源泉にして、智徳を啓発成就するを以つてその大本とす。：」と刻まれています。

視察会の女教員一行
 傳馬船が転覆遭難
 あ、魔の手賀沼 一八の生霊を呑む

刻一刻の浸水

遺影の生録 加瀬校長談